

事務事業名	消火栓施設維持管理事業		所属部局	総務部	単位番号	3131	
			所属課室	危機管理室	課長名	高野 晃史	
	☐ 実施計画事業		所属担当	防災担当	担当者名	内田 淳	
基本政策	基本計画	I 情報と連携の都市づくり	予算科目	会計 01 名称 一般 09 款 01 項 03 目 03 細目 00 細々目 06			
政策	計画	06 安全な環境づくり	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金			
施策	体系	08 防災体制の充実					
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 15 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)			法令根拠			
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載			事業費の主な内訳 (22年度)			
	地区からの要望に基づき現地調査を実施し、消火栓設備の修繕等を行う。(消火栓ボックス、ホース、消火栓の修繕)			項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)
				消耗品	894		
				修繕料	2,744		
						計	3,638

1 現状把握 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	消火栓ボックスの取替え 11箇所 消火栓ホース47本 消火栓の修繕 15箇所
23年度活動予定	消火栓ボックスの取替え 20箇所 消火栓ホース40本 消火栓の修繕 6箇所
② 対象 (この事務事業は誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	
市民、建物火災	
③ 意図 (この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	
火災発生時にすみやかに消火作業、延焼防止ができる。	
④ 上位目的 (どのような結果に結び付けるのか)	
市民の安全が守られる。	

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 消火栓ボックスの取替え	箇所
イ 消火栓の修繕	箇所
ウ	
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 市人口	人
イ 建物火災全焼件数	件
ウ	
⑦ 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 建物火災全焼件数	件
イ 建物火災焼損面積	m ²
ウ 消火栓設置数	基
⑧ 上位成果指標 (結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 火災被害者数	人
イ	

(2) 事業費・指標の推移		単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)	
年間 トータル コスト	事業費	国庫支出金	千円							
		県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円				4,500			
		一般財源	千円	4,200	3,638	6,450	1,180	6,000	6,000	
	事業費計 (A)	千円	4,200	3,638	6,450	5,680	6,000	6,000	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2	
		延べ業務時間	時間	400	400	400	400	400	400	
		人件費計 (B)	千円	1,784	1,784	1,585	1,585	1,585	1,585	0
		(A)+(B)	千円	5,984	5,422	8,035	7,265	7,585	7,585	0
活動指標		箇所		50.0	11.0	20.0	20.0	20.0	20.0	
	箇所		7.0	15.0	6.0	6.0	6.0	6.0		
	ウ									
対象指標	人		72,869.0	73,014.0	72,854.0	73,000.0	73,000.0	73,000.0		
	件		14.0	12.0	10.0	10.0	10.0	10.0		
	ウ		7.0	15.0						
成果指標	件		14.0	12.0	10.0	10.0	10.0	10.0		
	m		937.0	971.0	950.0	950.0	900.0	900.0		
	基		1,596.0	1,599.0	1,602.0	1,605.0	1,608.0	1,611.0		
上位成果指標	人		5.0	6.0	5.0	5.0	5.0	5.0		
	イ									

(3) この事務事業を取り巻く状況 (対象者・社会状況等) の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	合併前の旧町村時代から毎年、予算の範囲内で整備されてきている。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	合併後8年間大きな変化はない。今後、老朽化が進むことを考えると、必要な事業である。
③ 事務事業に対して関係者 (市民、事業対象者、議会等) からどんな意見・要望が寄せられているか?	消火栓・消火栓ボックスについては老朽化が激しく、まだまだ修繕等の対応ができていない状況であり、住民からの要望もかなりある。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	☐ 取り組みしている ⇒ [内容↓] ☒ 取り組みしていない ⇒ [理由↓]
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過 (取り組みしていない場合はその理由)	予算の範囲内でなんとか対応している状況であり、市内の消火栓の状況を見ると、まだまだ計画的に整備していく必要がある。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	なし

事務事業名	消火栓施設維持管理事業	所属部	総務部	所属課	危機管理室
-------	-------------	-----	-----	-----	-------

2 評価 (Check1) 担当者による事後評価 (複数年事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない (見直し余地がある) ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由 ↓] 火災発生時の最も容易な水利として、どうしても必要であり、火災発生時実際に活用しているため。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由 ↓] 地域の安全な環境づくりのための事業であり、市が直接関与することが妥当であるため。
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由 ↓] 火災等の災害から市民、建物の被害を最小限に抑えることを目的としており見直しの余地はない。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒ [理由 ↓] 地域の要望を検討し、最も効果的な修繕を行っている。
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒ (類似する事務事業の名称を記入 ↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒ [理由と具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒ [理由 ↓] ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒ [理由と影響の内容 ↓] 火災発生時の水利が確保できなくなる ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒ [理由 ↓] 火災発生時の水利が確保できなくなる
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費 (コスト) を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由 ↓] 予算の範囲内でなんとか対応している状況であり、市内の消火栓の状況を見ると、まだまだ計画的に整備していく必要がある。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？ (事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由 ↓] 事務実施に関わっている職員については、最低限の時間内で事業を執行しており、削減余地はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由・具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由 ↓] 市内全域を対象としており、必要性があると判断した場合のみ設置しており適正である。

3 評価 (Check2) 担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括 (事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	壊れてから要望という図式であるが、各地区消防などで、早めの点検を行いできるだけ修繕をなくす方法を検討する。早め早めが大事である。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性 (Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携 (有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善 (公平性⑨の結果) ☐ 休止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上 (有効性④の結果) ☒ 現状維持 (全評価項目で適切) ☐ 必要性検討 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減 (効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について																								
①なし																								
②																								
③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		(5) 事務事業優先度評価結果																						
①なし		成果優先度評価結果	⑧																					
②																								
③		コスト削減優先度評価結果	⑥																					